

第6節 日常生活の中での学習

— 日常の中での基礎と応用

【日常生活の中での学習は「①読みたい本を本屋さんで探して買う（78.8%）」「②家でペットや動物・植物の世話をする（70.0%）」を除いてはほぼ5割かそれ以下となっており、あまり活発ではない。なお、「⑦虫を観察したり、虫取りをする」児童や「②家でペットや動物・植物の世話をする」児童は、それらをしない児童よりも学習への意欲（好き）や感動が高くなっている。日常生活の中での学習は、児童の教科の学習と強い相関をもっていると言える。】（図1-24、表1-7）

Q2

あなたのふだんの生活についておききます。

A. あなたはふだん、つぎのようなことをどのくらいしますか。1)～8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

自己の能力を開発し、社会の中でそれを生かすためには、いわゆる学業だけではなく、広い意味での学習が求められる。また、そうした広い意味での学習は学校の学習の基礎とも応用ともなる。

図1-24は、児童の日常の中での“学習”の状況をみたものである。

最初に、全体的に言えることは、日常生活の中での学習は「①読みたい本を本屋さんで探して買う（78.8%）」「②家でペットや動物・植物の世話をする（70.0%）」を除いてはほぼ5割かそれ以下となっており、あまり活発ではないということである。

つづいて、図書へのアクセスの状況をみると、「①読みたい本を本屋さんで探して買

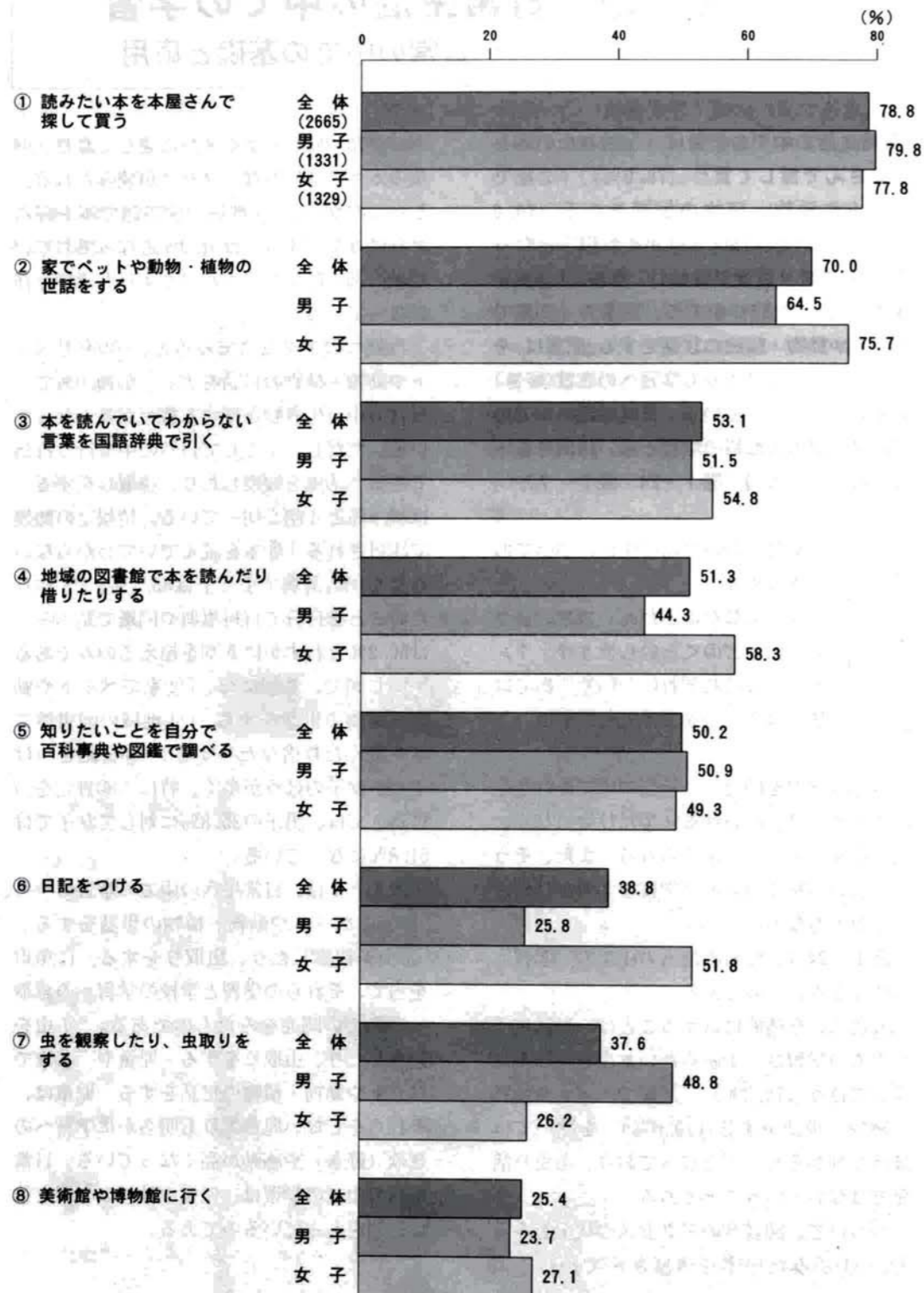
う」が78.8%とおよそ8割に達しており、児童の本への積極的なアクセスが読みとれる。しかしながら、「④地域の図書館で本を読んだり借りたりする」は51.3%となっており、地域の図書館が本屋さんの本よりも遠い存在になっている。

自然へのアクセスでみると、「②家でペットや動物・植物の世話をする」が70.0%で、日常の中で生き物と接する機会が多くなっている。ただし、主として自然の中で行う行為である「⑦虫を観察したり、虫取りをする」は37.6%と4割を切っている。情報との関連で注目される「③本を読んでいてわからない言葉を国語辞典で引く」は53.1%、「⑤知りたいことを自分で百科事典や図鑑で調べる」は50.2%とわずかに5割を超えるのみである。

同じ図で、性別には、「②家でペットや動物・植物の世話をする」「④地域の図書館で本を読んだり借りたりする」「⑥日記をつける」が女子のほうが多く、特に「⑥日記をつける」では、男子の25.8%に対して女子では51.8%になっている。

表1-7は、日常生活の中での学習のうち、「②家でペットや動物・植物の世話をする」「⑦虫を観察したり、虫取りをする」に焦点を当て、それらの学習と学校の学習への意欲・感動との関連をみたものである。「⑦虫を観察したり、虫取りをする」児童や「②家でペットや動物・植物の世話をする」児童は、それらをしない児童よりも明らかに学習への意欲（好き）や感動が高くなっている。日常生活の中での学習は、児童の教科の学習と強い相関をもっているのである。

図1-24 日常生活の中での学習



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

表1-7 日常の中での自然との接触と学習への取り組み

活動	サンプル数	取り組み (%)	
		A: 生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	B: 生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好き
虫を観察したり、虫取りをする*	(1000)	51.1	43.9
〃 しない	(1655)	28.0	15.7
家でペットや動物・植物の世話をする*	(1865)	40.9	30.8
〃 しない	(775)	26.5	15.6

注1) *印は、「する」は4段階の選択肢のうち、「よくする」と「時々する」の合計。「しない」は「あまりしない」と「ほとんどしない」の合計。
注2) 数値 (%) は「よくある」の割合。
注3) () 内はサンプル数。